

国民の声を国政へ 国会論戦



国立病院内保育所の民間会社撤退問題 保育と雇用の継続を 本村議員

人、保育士などの職員1238人が影響を受けます。

2004年、ピジョンが委託をうけたときも大混乱が起きました。もともと国立病院の院内保育所で働いていた保育士・賃金職員は、なくなく退職して、賃金など労働条件が下がっても、保育を維持しようとしてピジョンで働いて、子どもたちの保育と病院の体制を守ってきました。

本村伸子衆院議員は10日の決算行政監視委員会分科会で、国立病院の院内保育を委託されていたピジョン株式会社が、来年3月末で全面撤退する問題を取り上げ、保育と雇用の継続を求めました。国立病院の院内保育所は2004年度から同社に民間委託され、17年度は全国111の院内保育所を運営しています。しかし、同社の全面撤退で、子ども3634

本村氏は、再び大混乱を起こしていることは許されないと述べ、「保育の継続、保育士の雇用の継続、医療体制保障を」と迫りました。塩崎恭久厚生労働相は「大事なことは、保育士について引き続き同じ職場で勤務が続けられるこ

本村議員に、質問を見た方から手紙が寄せられました。以前、国立病院で働き、院内保育所を利用していた名古屋市北区の女性です。
「(2004年の)いきさつも取り上げてくださり、涙が出ました。子ども、医療労働者、保育士の立場から何が大切なのか、本当によくわかっていて頼もしく思いました」

遺伝子組み換え生物の規制ただす 生物多様性の確保、損害への措置を 武田議員

武田良介参院議員は13日の環境委員会で、遺伝子組換え(GM)生物等の使用等の規制による生物多様性の確保に関する法律(カルタヘナ法)改正について質問しました。

今回の法改正は、GM生物による影響の予防策に加え、損害の回復を追加するものです。

武田議員は、三重県内の国道23号線沿いに生育しているGM西洋菜種の割合と、菜種油を生産するためにGM菜種が輸入され、三重県四日市港から工場に運ぶときに種が道路に落ちてGM種が自生している問題を質しました。



環境省の亀澤玲治自然環境局長は、「国立環境研究所による調査では、75%から

78%がGM西洋菜種である」と答え、また、主要な菜種輸入港周辺の主要輸送道路付近で、「輸送中にこぼれ落ちたGM西洋菜種と西洋菜種との交雑が確認されている」と述べました。

武田議員は、「江戸の明かりは伊勢で持つ」といわれるほど三重のナバナの歴史は古い、県のブランド野菜とGMとの交雑を防ぐため、市民が道路に自生したGM菜種を引き抜いていると苦労を紹介しました。

また、武田議員は農業を含むGMによる損害に対する規定等を法案に盛り込むよう求めました。

亀澤局長は「法改正によって環境相が」損害の回復を図るため必要な措置を命ずることとしている」と答え、山本公一環境相は、「GM生物による生物多様性への悪影響を未然に防ぐ、万一損害が

生じた場合は適切な対応をとる、着実な実施に努めたい」と答えました。

COP22参加の経験から
武田氏 参考人質疑で

武田良介参院議員は、12日の国際経済・外交調査会で外交能力の向上をテーマにした参考人質疑で質問しました。

武田議員は、昨年11月、モロッコで開かれた第22回国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP22)に参加した経験から、地球温暖化対策での各国議員間の対話の重要性について質問しました。これに対し、参考人の川口順子元環境相は、「政府だけでは国の政策が染みわたらない。議員間の話し合いは結果につながりやすく、広く理解が寛容される」と述べました。

東海96万票、比例3議席の実現で野党連合政権の大きな流れを